

環境情報検証報告書

株式会社IHI 御中

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)は、株式会社 IHI が作成した「2023 年度IHIグループ環境データ」(以下、「算定報告書」という。)が、同社により作成された「2023 年度IHIグループ環境情報収集・集計ルール」(以下、「算定ルール」という。)に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2023 年度とは 2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの期間をいう。検証の目的は、算定報告書を客観的に評価し、同社の 2023 年度の温室効果ガス(以下、「GHG」という。)排出量、エネルギー消費量、再生可能エネルギー消費量、取水量合計、排水量合計及び廃棄物排出量(以下、「環境情報」という。)の算定の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、GHG 排出量については「ISO14064-3」、エネルギー消費量、再生可能エネルギー消費量、取水量合計、排水量合計及び廃棄物排出量については「ISAE3000」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象組織範囲は IHI グループの国内 60 拠点及び海外 13 拠点とした。また、本検証業務の対象活動範囲は、国内拠点については、Scope1、Scope2(マーケット基準)の GHG 排出量、エネルギー消費量、再生可能エネルギー消費量、取水量合計、排水量合計、一般廃棄物排出量、産業廃棄物排出量、有害廃棄物排出量及び有価物(リサイクル)量であり、海外拠点については、Scope1、Scope2(国別ロケーション基準)のエネルギー起源 CO₂ 排出量、エネルギー消費量、再生可能エネルギー消費量、取水量合計、排水量合計、廃棄物排出量及び有価物(リサイクル)量とした。なお、保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準値は検証対象それぞれの総量における 5%とした。

検証手続きにおいては、まず、算定ルールと統括機能の確認を実施した。続いてサンプリングにより IHI 豊洲 IHI ビル、豊洲エネルギーサービス株式会社及び IHI アグリテック 松本本社の 3 拠点に対し現地検証を実施した。現地検証では各拠点における算定対象範囲の確認、GHG 排出源、エネルギー消費状況、再生可能エネルギー消費状況、取水状況、排水状況、廃棄物排出状況の確認と監視点の確認、算定・集計体制の確認、活動量データについては根拠資料との突き合わせを行った。なお、現地検証の対象とした拠点の決定は株式会社 IHI が実施した。

3. 検証の結論

検証の対象とした、算定報告書の環境情報において、算定ルールに準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。

4. 留意事項

算定報告書の作成責任は株式会社 IHI にあり、環境情報の検証の結論に関する責任は当機構にある。株式会社 IHI と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目 25 番地

一般財団法人日本品質保証機構

理事 浅田 純 男

